

定 款

社会福祉法人 清光会

社会福祉法人 清光会 定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ)障害者支援施設 和泉の里の経営

(ロ)障害者支援施設 ゆかりの里の経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ)障害福祉サービス事業(恵誠の里(自立訓練、生活介護))の経営

(ロ)障害福祉サービス事業(ささゆり作業所(生活介護、就労継続支援))の経営

(ハ)障害福祉サービス事業(和泉の里(短期入所))の経営

(ニ)障害福祉サービス事業(ゆかりの里(短期入所))の経営

(ホ)障害福祉サービス事業(ひねのホーム(共同生活援助))の経営

(ヘ)障害福祉サービス事業(喜寄楽(居宅介護、行動援護、重度訪問介護))の経営

(ト)移動支援事業(喜寄楽)の経営

(チ)生計困難者に対する相談支援事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人清光会という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を大阪府泉佐野市大木2247番地の1に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上9名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、職員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ外部委員が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、一人あたりの各年度の総額が100,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

- 2 評議員の報酬については、勤務実態に即して支給することとし、評議員の地位にあることのみによっては支給しない。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集

する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選により決定する。

- 2 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 3 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
 - (1) 監事の解任
 - (2) 定款の変更
 - (3) その他法令で定められた事項
- 4 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者に第2項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
- 5 第2項及び第3項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから、選出された議事録署名人2名がこれに署名又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上8名以内
- (2) 監事 2名以内

- 2 理事のうち1名を理事長とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 理事長は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、一人あたりの各年度の総額が150,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って、算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第23条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第24条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第25条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第26条 理事会に議長を置き、議長は理事長とする。

- 2 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 3 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第27条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印しなければならない。

第6章 資産及び会計

（資産の区分）

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の4種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) ●泉佐野市大木 2247 番地 1、2244 番地 3 所在の建物

- ・鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建更生施設（障害者支援施設和泉の里）1 棟
（床面積 1 階 610.55 m² 2 階 453.96 m² 3 階 449.55 m² 4 階 52.21 m²）

- ・補強コンクリートブロック造折板葺平家建倉庫 1 棟
（床面積 5.16 m²）

- ・軽量鉄骨造折板葺平家建機械室 1 棟
（床面積 3.30 m²）

- ・鉄筋コンクリート・鉄骨造銅板・亜鉛メッキ鋼板葺 3 階建更生施設
（障害者支援施設和泉の里）1 棟
（床面積 1 階 224.07 m² 2 階 304.23 m² 3 階 297.46 m²）

●泉佐野市大木 2247 番地 2 所在の建物

- ・鉄骨造スレート葺 3 階建児童福祉施設（障害者支援施設和泉の里）1 棟
（床面積 1 階 111.43 m² 2 階 113.84 m² 3 階 113.84 m²）

●泉佐野市大木 1753 番地 1 所在の建物

- ・鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建児童福祉施設（障害者支援施設和泉の里）1 棟
（床面積 1 階 74.40 m² 2 階 68.05 m²）

●泉佐野市大木 1754 番地 1 所在の建物

- ・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建児童福祉施設（障害者支援施設和泉の里）1 棟
（床面積 1 階 180.00 m² 2 階 180.00 m²）

●泉佐野市日根野 2331 番地 1 所在の建物

- ・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建児童福祉施設（障害者支援施設和泉の里）1 棟
（床面積 1 階 431.40 m² 2 階 431.40 m²）

●泉佐野市大木 10 番地所在の建物

- ・鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建更生施設（障害者支援施設ゆかりの里）1 棟
（床面積 1 階 56.83 m² 2 階 794.28 m² 3 階 502.77 m² 4 階 504.87 m²）

●泉佐野市土丸 1382 番地所在の建物

- ・鉄筋コンクリート造銅板葺 2 階建作業場(障害福祉サービス事業ささゆり作業所)1 棟
(床面積 1 階 454.25 m² 2 階 345.68 m²)
- ・鉄骨造亜鉛メッキ銅板ぶき 2 階建作業所(障害福祉サービス事業ささゆり作業所)1 棟
(床面積 1 階 277.28 m² 2 階 265.74 m²)
- ・鉄骨造亜鉛メッキ銅板ぶき 2 階建作業所(障害福祉サービス事業ささゆり作業所)1 棟
(床面積 1 階 52.20 m² 2 階 52.20 m²)

●泉佐野市上之郷 2007 番地 1 所在の建物

- ・鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建児童福祉施設
(障害福祉サービス事業恵誠の里) 1 棟
(床面積 1 階 352.80 m² 2 階 351.00 m² 3 階 260.00 m² 4 階 54.50 m²)

●泉佐野市日根野 2113 番地 1 所在の建物

- ・鉄骨造陸屋根 2 階建居宅
(障害福祉サービス事業ひねのホーム) 1 棟
(床面積 1 階 113.81 m² 2 階 71.92 m²)

●泉佐野市日根野 2134 番地 7、2134 番地 6 所在の建物

- ・木造瓦葺平家建居宅
(障害福祉サービス事業第 2 ひねのホーム) 1 棟
(床面積 1 階 168.91 m²)

●泉佐野市日根野 2120 番地 1 所在の建物

- ・木造かわらぶき 2 階建児童福祉施設
(障害福祉サービス事業第 4 ひねのホーム) 1 棟
(床面積 1 階 74.52 m² 2 階 74.52 m²)

●泉佐野市上之郷 2009 番地所在の建物

- ・木造かわらぶき 2 階建児童福祉施設
(障害福祉サービス事業第 5 ひねのホーム・第 6 ひねのホーム) 1 棟
(床面積 1 階 161.12 m² 2 階 161.12 m²)

●泉佐野市上之郷 2009 番地所在の建物

- ・木造かわらぶき 2 階建児童福祉施設
(障害福祉サービス事業第 7 ひねのホーム・第 8 ひねのホーム) 1 棟
(床面積 1 階 161.12 m² 2 階 161.12 m²)

●泉佐野市上之郷 2009 番地所在の建物

- ・木造かわらぶき 1 階建児童福祉施設
(障害福祉サービス事業第 9 ひねのホーム) 1 棟
(床面積 1 階 151.20 m²)

(2) 泉佐野市大木 2247 番 1	宅地 2,785.01 m ²
泉佐野市大木 2244 番 3	宅地 856.92 m ²
泉佐野市大木 2244 番 7	山林 604.00 m ²
泉佐野市大木 1753 番 1	宅地 102.47 m ²
泉佐野市大木 1754 番 1	宅地 472.00 m ²

泉佐野市日根野 2331 番 1	宅地 1,263.78 m ²
泉佐野市日根野 2333 番 1	宅地 640.40 m ²
所在の和泉の里敷地	計 6,724.58 m ²
泉佐野市大木 10 番	宅地 1,616.28 m ²
所在のゆかりの里敷地	
泉佐野市土丸 1382 番 1	宅地 3,829.86 m ²
所在のささゆり作業所敷地	
泉佐野市上之郷 2007 番 1	宅地 879.33 m ²
所在の恵誠の里敷地	
泉佐野市日根野 2113 番 1	宅地 420.00 m ²
所在のひねのホーム敷地	
泉佐野市日根野 2134 番 7	宅地 296.74 m ²
泉佐野市日根野 2134 番 6	宅地 84.74 m ²
所在の第 2 ひねのホーム敷地	計 381.48 m ²
泉佐野市上之郷 2009 番	宅地 1,309.09 m ²
所在の第 5 ひねのホーム・第 6 ひねのホーム敷地	
泉佐野市上之郷 2009 番	宅地 1,309.09 m ²
所在の第 7 ひねのホーム・第 8 ひねのホーム・第 9 ひねのホーム敷地	

- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産及び収益事業用財産は、第 4 3 条に掲げる公益を目的とする事業及び第 4 5 条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第 29 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、泉佐野市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、泉佐野市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）
- (3) 社会福祉施設整備のための資金に対する融資を行う確実な民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合で、当該事業計画が適切であるとの関係行政庁による意見書を泉佐野市長に届け出た場合。なお、当該貸付に係る償還が滞った場合には、遅滞なく泉佐野市長に届け出るものとする。

(資産の管理)

第 30 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて保管する。

- 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第31条 この法人の事業計画書及び、収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第32条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
- (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(特別会計)

第33条 この法人は、特別会計を設けることができる。

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第37条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 日中一時支援事業和泉の里の経営
- (2) 日中一時支援事業ゆかりの里の経営
- (3) 日中一時支援事業ささゆり作業所の経営
- (4) 日中一時支援事業恵誠の里の経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(剰余金が出た場合の処分)

第38条 前条の規定によって行う事業から剰余金が生じた場合は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

第8章 収益を目的とする事業

(種別)

第39条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

- (1) 社会福祉法人清光会ハーモニー事業部の事業
- (2) 社会福祉法人清光会不動産賃貸事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(収益の処分)

第40条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業（社会福祉法施行令（昭和33年政令第185号）第13条及び平成14年厚生労働省告示第283号に掲げるものに限る。）に充てるものとする。

第9章 解散

(解散)

第41条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第42条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人から選出されたものに帰属する。

第10章 定款の変更

(定款の変更)

第43条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、泉佐野市長の認可（社会福祉法第45条の3第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

- 2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を泉佐野市長に届け出なければならない。

第11章 公告の方法その他

(公告の方法)

第44条 この法人の公告は、社会福祉法人清光会の掲示場に掲示するとともに、官報又は新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第45条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	田端 清正
理 事	兵庫 四郎
	坂本 正司
	河原 重三郎
	梶間 道夫
	榎谷 三男
	田端 重成
監 事	岩田 俊二
	家治 敏明

- 2 この規程は平成 1年4月1日より施行する。
この規程は平成20年1月1日より施行する。
この規程は平成22年4月1日より施行する。
この規程は平成26年4月1日より施行する。
この規程は平成29年4月1日より施行する。
この規程は平成30年4月1日より施行する。
この規程は平成31年4月1日より施行する。
この規程は令和 3年1月5日より施行する。
この規程は令和 3年4月7日より施行する。
この規程は令和 6年3月29日より施行する。

社会福祉法人 清光会 定款細則

第1条 この細則は、社会福祉法人清光会定款第30条に規定する法人の「日常の業務」即ち理事長の専決事項を定めることを目的とする。

2 「日常の業務」とは次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 「施設長の任免その他重要な人事」を除く職員の任免
 - (2) 職員の日常の労務管理・福利厚生に関する事
 - (3) 債権の免除・効力の変更のうち、当該処分が法人に有利であると認められるもの、その他やむを得ない特別の理由があると認められるもの。但し、法人運営に重大な影響があるものを除く。
 - (4) 設備資金の借入に係る契約であって予算の範囲内のもの
 - (5) 建設工事請負や物品納入等の契約のうち次のような軽微なもの
 - ア 日常的に消費する給食材料、消耗品等の日々の購入
 - イ 施設整備の保守管理、物品の修理等
 - ウ 緊急を要する物品の購入等尚、契約の金額及び範囲については別表1のとおりとする。
 - (6) 基本財産以外の固定資産の取得及び改良等のための支出並びにこれらの処分。但し、法人運営に重大な影響があるものを除く。
尚、金額及び範囲については別表1のとおりとする。
 - (7) 損傷その他の理由により不要となった物品又は修理を加えても使用に耐えないと認められる物品の売却又は廃棄。但し、法人運営に重大な影響があるものを除く。
 - (8) 予算上の予備費の支出
 - (9) 入所者・利用者の日常の処遇に関する事
 - (10) 入所者の預り金の日常の管理に関する事
 - (11) 寄付金の受入れに関する決定。但し、法人運営に重大な影響があるものを除く。
- 3 尚、前項の中には諸規程において定める契約担当者に委任されるものも含まれるものとする。

別表 1

契約の種類	金額
1 工事又は製造の請負	1,000万円
2 食料品・物品等の買入れ	1,000万円
3 前各号に掲げるもの以外	1,000万円

附則

この細則は平成1年4月1日より施行する。

この細則は平成20年1月1日より施行する。

この細則は平成22年4月1日より施行する。

この細則は平成26年4月1日より施行する。

この細則は平成29年4月1日より施行する。